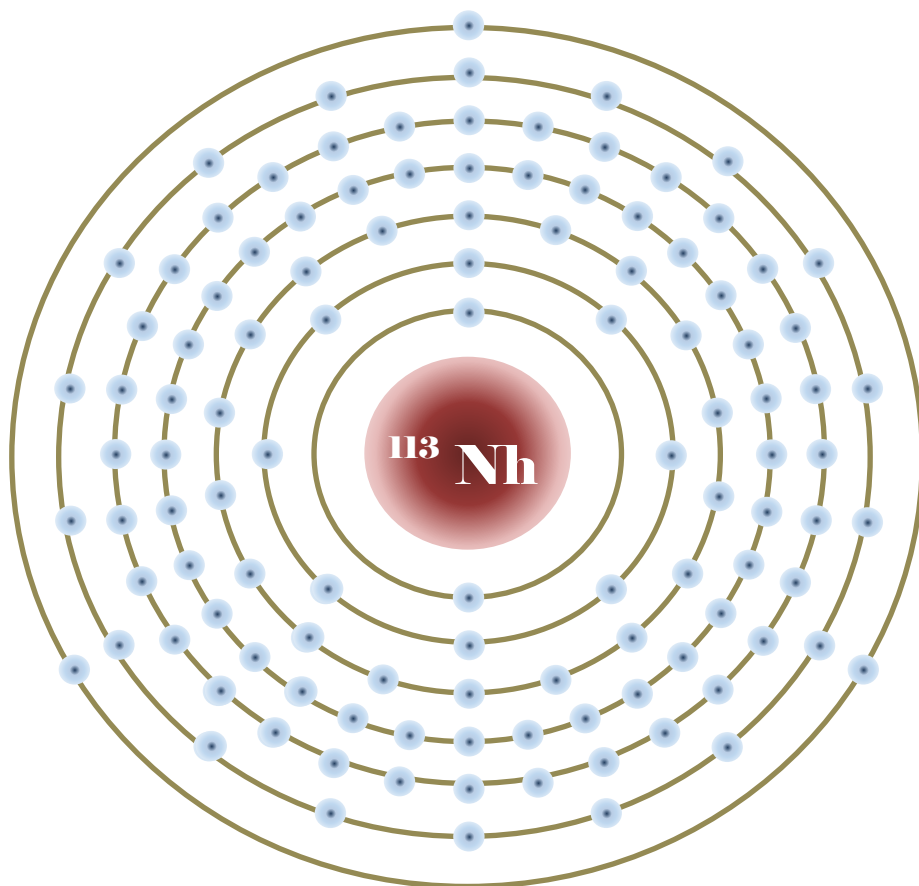


琉大化学

第 33 号

平良初男先生瑞宝中綬章叙勲記念号

堀内敬三先生追悼号



Nihonium

2,8,18,32,32,18,3

2018 年 11 月

琉球大学化学同窓会

http://chem.sci.u-ryukyu.ac.jp/?page_id=832



『琉大化学 33 号』目次

□『琉大化学』第 33 号の発刊によせて

同窓会会長 32 期 川満裕史 1

□平良初男先生瑞宝中綬章叙勲を祝って

お祝いのあいさつ	琉大教授 棚原 朗	3
平良先生との思い出	3 1 期 佐和田千香子	4
平良先生から学んだこと	3 4 期 上間 均	5
平良初男先生の瑞宝中綬章叙勲を祝って	3 4 期 新垣 ゆう子	6

□堀内敬三先生を偲んで

堀内先生をしのんで	琉大教授 上江田捷博	9
堀内敬三先生を悼む ～琉大化学における教育へのご貢献～	琉大准教授 漢那 洋子	10

□あれから～32期生の近況と思い出～

市職員の仕事	3 2 期 波平 治	15
広島に戻って思うこと	3 2 期 江本良時	15
工業高校・定時制高校の実情	3 2 期 川満裕史	16
33年目の夏	3 2 期 松田 了	17
社会人経験から伝えたいこと	3 2 期 比嘉仁志	18
大学を卒業して関わった仕事について	3 2 期 幸地英之	19
琉球大学化学科を卒業して	3 2 期 金丸利康	20
32期の思い出		21

□現役学生から～

学生生活を振り返って	4 年次 禰覇盛斗	27
化学系に進学してから	大学院 1 年 与那城仁	28

□資料編

「写真で見る50年の歩み」より	29
新規会員名簿（平成30年度）	31
理工学研究科所属一覧	33
平成30年度 役員・各期幹事名簿	35
琉球大学化学同窓会会則	36
琉球大学化学同窓会個人情報保護方針	39
琉大逍遙歌	41
編集後記	42

「琉大化学」第33号の発刊によせて

同窓会会長 川満 裕史（第32期）

琉球大学化学同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。「琉大化学」第33号の発刊に当たり、ごあいさつ申し上げます。

さて、平成29年度の総会の場で、平成30年度の役員は1985年（昭和60年）卒の第32期が担当することが承認されました。しかし、平成29年度の業務を整理し、平成30年度の計画を策定の段階で、このまま第33期につながると、人数特に沖縄本島内の在住者数があまりにも少なく、運営が非常に困難になることが予想されました。そこで、第33期・第34期の代表者と相談し、平成30年度は、第32期と第33期合同で取り組み、平成31年度は第34期で取り組むこととなりました。従来よりも担当期が1年早まるという重要事項にもかかわらず事後承諾となってしまう、誠に申し訳ありませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

我々の入学した1981年（昭和56年）には、教養部が移転し、卒業に必要な授業がすべて現キャンパスで行われるようになりました。もともと、1年前期の登録だけは首里キャンパスで行われたので、これが唯一の首里キャンパスでの思い出となります。入学式は、医学部医学科1期生の入学とも重なったため、マスコミも殺到し、“理学部”と“医学部”を取り違えたままとんちんかんな取材を受けたことも思い出となっています。

ところで、前事務局長より、平成29年度の役員会発足に当たり、第32期より副会長と監査を出すようにとの連絡を受け、長門（貴）、松田（了）、川満の3人で対応することとなりました。安里前事務局長の計らいで、役員会は琉大で行われたため、校舎内外をみることができ、学生時代を思い出し、懐かしい気持ちを持つ一方現在の学生とのギャップを感じることもありました。

平成30年度の役員会発足について、10年ほど同期会は行っていなかったものの、東京や沖縄で数名の飲み会を不定期に行っていたため、東京在住の永山が同期の連絡先をとりまとめおり、おかげさまで、早々に同期の名簿が更新・役員選出ができました。同期の多くが県内在住で、教員も多いため、比較的連絡がつきやすいということも幸いしました。そうはいつても、各人職場においては、年齢的にも公私ともに最も多忙な立場にいるため、なかなかはかどらず、なんとかここまでこぎ着けた次第です。

昨年度の総会でご案内いたしましたのが、平成29年10月20日、堀内敬三先生がご逝去されました。堀内先生は、私が大学院生であった頃に教養部に着任されたため、授業を受けることはありませんでしたが、研究分野が物理化学ということもあり、何度かお話しさせていただきました。とても温厚な話しぶりであったことを記憶しております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ところで、平良初男先生が、今年春の叙勲で授瑞宝中綬章を受章されました。おめでとうございます。長年にわたる、分析化学・放射化学の研究・教育の成果や理学部長、理事等の重責を歴任された実績等が評価されたものと考えます。今後とも多方面にわたるご活躍を祈念しております。

今回の会誌は、慶弔併せ持った変則的な形となりましたが、できるだけ迅速な対応ということで、このような形になったことをご容赦願います。また、ご多忙にもかかわらず貴重なお時間を割いて執筆していただいた皆様、諸準備等にご協力頂きました琉大化学系事務室の皆様に心からの感謝を申し上げますとともに会員の皆様のご健勝、ご多幸と化学同窓会のますますの発展を祈念し、発刊の辞と致します。

平良初男先生
瑞宝中綬章叙勲を祝って



お祝いのあいさつ

琉球大学理学部海洋自然科学科化学系
棚原 朗（25期）

この度、平良初男先生が瑞宝中綬章を受章されました。先生の長年にわたる琉球大学での教育・研究そして管理運営・学内行政のご功績さらに学外における委員会活動等の地域貢献に対しこの章が授与されましたことは、化学同窓生一同にとっても大変喜ばしいことであります。

私は分析講座に採用されて（1989年）以来、平良先生のお仕事ぶりを間近で拝見し、そのご決断力と実行力には何度も驚かされました。その中でも特に機器分析センター設置へ向けた強い意気込みは、周りを圧倒するオーラを感じました。先生は設置に向け学内合意、概算要求、文部省折衝等、多くのハードルを次々に奮闘クリアし、ついに平成8年に設置を実現させました。予想より早く実現されたことに対し驚くと共に、微力ながらお手伝いさせて頂いたことは私の中でも大変感慨深いものがあります。

その後、平良先生は平成11年に評議員、平成14年～16年まで理学部長、平成16年から副学長に就任し、平成19年に琉球大学を退職されました。平良先生が琉球大学を退職されてから早11年の月日が経過しました。その間も、県内の自治体等の委員会等を歴任し、現在は沖縄科学技術振興センターの理事長に就任し沖縄県の科学技術振興の中核的な支援機関として地域振興に取り組んでおられます。

平良先生は現役の頃はツバキがお好きで、沖縄タイムス社の「ツバキ展」にも出展なさるほど、多種のツバキを育てておられました。新年のご挨拶に何うと飲みながらそれぞれの種類のツバキについて、原産地や育て方などいとおしそうに説明されてくれます。先生はPCもお好きで、昔は仕事に必要な解析ソフトもご自分でプログラミングされておりました。学生の控え室にもいち早くPCを導入し、卒業研究のまとめや発表に利

用させてくれました。最近のPCは昔と違って通信機能が強く複雑ですが、ネットサーフィンを楽しんでおられるようです。昨年新しいPCに買い換えるので手頃な機種を教えてほしいとのことで、お手伝いさせていただきました。

退職後は地域貢献でお忙しい中、詩吟や尺八にも挑戦しておられると聞いています。その腕前も、そのうちに同窓会でご披露していただけるものと期待しております。

PCでお困りの際は、いつでもお電話下さい。

今後とも平良先生と奥様のご健康をお祈りいたします。



平良先生との思い出

沖縄県立開邦高等学校
佐和田千香子（31期）

平良初男先生、このたびの瑞宝中綬章叙勲おめでとうございます。先生の長年の功績が認められ、栄えある受章をされたこと、旧分析化学教室はじめたくさんの教え子たちが、心から喜んでおります。今回私が代表してお祝いを述べる光栄をいただきました。

私が分析教室に在籍していたのは4年次と修士課程のあわせて3年間でした。平良教室では3代目の院生となります。修了後、何回かお会いする機会はありませんでしたが、仕事や私事にかまけて大変不義理をしておりましたので、最近の先生のご様子は人づてに知ったことのみであります。今回は当時の平良先生の思い出を語らせていただきます。

まず思い出するのは、英語が堪能でいらっしゃったことです。当時は私たちの前で英語を不自由なく話される先生はまだ少なかったように思います。その中で、平良先生はよく、英語で、電話をされたり、ポスターセッションを行ったりなさるので、すごいなと思っていました。アブストラクトの英訳を結局先生にやっていただいたくらい、英語ができない私が英語のことを話すのもおかしいですが、英語力もさることながら、英語をコミュニケーションツールとして使いこなす、ということが平良先生の行動や考え方からすれば当たり前のことでした。

県外での研究会や学会発表にエントリーすることはもちろん、懇親会や飲み会も、とても大事な交渉や情報交換の場だとおっしゃって精力的に参加され、私も同伴させていただきました。そしてその場で有益な情報を手に入れたり、人脈を広げていったりする様子を目の当たりにしてきました。その影響もあってか、仕事をしていく上で、そういえば私も同じことを大事に行動しているな、ということはこの文をま

とめながら気づきました。

宇宙を舞台にしたSF小説が大好きだった私を、高校の化学教師だった父は、こんな偽物の化学読み物を読むなんて、とよく非難していました。しかし、一度小説を平良先生に見つけたとき、「僕もこれよく読んだよ」といわれて、本物の科学者である先生が空想ものを読むのかと驚くと、「何を言うんだ、科学者はこういう読み物で懂れたことをエネルギーに研究するんじゃないか!」とおっしゃり、私は一気に視界が開けたような気がしました。そういえばゲームをしているところを見ても、ものすごく怒るというよりその内容に興味を持たれていましたね。私たちのことを信じてくださって、のびのびと育てていただきました。

コンビニもない時代、先生がきつと奥様に頼んでくださって、深夜にご飯とのかき揚げを何層にも重ねたものを差し入れてくださったことがありました。カップラーメンを一生分食べ尽くしていた私たちには、暖かいご飯が本当においしかったです。その後、家庭を持ったとき、おにぎりパイ（と命名しました）のアレンジメニューが我が家の定番になりました。

私は現在県立では進学校と言われる開邦高校に勤務しており、理数探究という授業を担当したり、科学コンクールにチャレンジさせたり、大学のミニミニスケールの研究指導や講義をしています。研究の面白さ、化学の面白さを伝えたくて熱をもってしゃべっているとき、そういえば平良先生も、面白いデータが得られて、それを報告した時は、本当に楽しそうに興味を持って聞いてくださったことを思い出します。

こうして平良先生との思い出を振り返ってみますと、今まで、私が現在の仕事についたのは確かに父の影響では

ありますが、平良先生の教育が今の私を作っているのだと改めて気づかされました。あまりできのいい学生ではありませんでしたが、研究の道を勧めてくださった時も、恐れと勇気のなさとありがたみのわからなさからお断りしてしまい、先生をがっかりさせたことと思います。それでも教職の道を進むことを励ましてくださいました。いま進学校で、生徒たちが難関大の博士課

程に憧れるのをみて、ちょっと惜しかったかなとも思いつつも、リケジョ、リケダンたちに夢を託して頑張っています。

ところで、耳によみがえる先生の教えは今もたくさんありますが、「仕事を早くルーチン化するのだよ。そうすればこなすのが楽になる」は今もなかなか達成できず苦戦しています。

平良先生から学んだこと

沖縄県立総合教育センター
上間 均（34期）

平良初男先生 瑞宝中綬章受賞おめでとうございます。

私は、大学3年の時に平良初男先生に放射化学の授業でお世話になり、是非、平良研究室に入りたいと思いました。また、平良初男先生が私と同じ、やんばる出身であるということもあって、父親みたいに感じておりました。大学4年に進級する3月には、放射化学分析教室に出入りしておりました。1986年4月26日にチェルノブイリ原子力発電所の事故がおり、初男先生から、エアーサンプラーで実験室2階のベランダから一定時間サンプルをとり、測定しておくようにと指示をうけ、測定を続け一週間後に山が現れ、それからは定期的に山が現れ、松葉や、雨水、牛乳などからも放射性核種が検出されました。私の研究テーマは、土壌中からイットリウムを取り出し、ビキニ環礁の水爆実験後にどのくらい放射性核種が沖縄に降ったかを調べることでしたが、うまくいかずに、チェルノブイリの原発事故に研究テーマを変えて卒業論文にしました。卒論提出の日には兼島清先生（故人）、平良初男先生、大森保先生3名の先生が卒業論文にサインをし、無事卒業ができました。

私は、すぐに教職に就くことができ

ず、また化学教員卒の採用試験もなく、一年間の就職浪人を経て、地学卒で採用試験を受けました。受かったことを平良初男先生に報告に行くと、平良先生は、「上間君おめでとう！どんな所でもその場所で一生懸命に極めるぐらいに取り組むことが大切だから、頑張るなさい。」と言葉をかけられました。今もこの言葉を大切にしています。教員として採用されてから三年間は地学の教諭として頑張りました。その後、平良初男先生の大学の同級生の奥間朝春教頭（当時）に巡り会い化学の教員として17年間務めました。県立開邦高校がスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けたときには、運営指導委員をお願いし、探究活動のテーマについてのアドバイスをもらいに平良先生を訪ねたりしました。

教育行政に携わるようになったのは、教育センターの研究主事が最初になります。教育センターに勤めて感じたことは、理科教育は、小学校の生活科から始まり、小学校理科、中学校理科、高等学校理科の物理（エネルギー領域）、化学（粒子領域）、生物（生命領域）、地学（地球領域）と一連の流れでつながっていること、小学校の先生の多くが理科の実験に係わったことが

ないこと、家庭科の内容の多くが理科に関連することでした。教育センターは教職員の研修施設で、物理、化学、生物、地学の各指導主事・研究主事があります。その4名で、小学校、中学校の教科書をくまなく勉強し、小学校の先生方向けの実験・実習講座を開設しました。小学校の先生は、月1回で夕方6時から8時までの講座ですが、熱心に勉強しにセンターに来てくださいます。学びに向かう姿勢（教師像）に頭が下がる思いです。

また、昨年から今年にかけて新学習指導要領の全面改定が行われました。この改定は、これからの時代に求められる教育を実現して行くために、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするかを教育課程で明確にしながら社会と連携協働しその実現を図っていく、社会に開かれた教育課程の実現が求められています。沖縄県教育委員会においても、「学力向上推進プロジェクト～授業改善6つの方策～」を立ち上げ、「問いが生まれる授業サポートガイド」を全職員に配布して学力向上に努めております。最近では小学校が全国学力・学習状況調査で、全国平均を上回ってきましたが、中学校に関しては依然として低い状況です。学力を、小学校、中学校、高等学校、大学とつないでいくことが大きな課題となっております。

私は、現在県立総合教育センター理科研修班班長で、物理、化学、生物、地学の各研究主事、中学校技術家庭科研究主事、家庭科指導主事の優秀な主事と一緒に仕事をしています。毎年小学校、中学校、高等学校理科の先生方が合計12名ほど半年研修にきます。研修に来た先生方や、高等学校化学教育研究会のメンバーと共に連携しながら、沖縄県の理科教育の発展、学力向上に尽くしています。いまでは化学の授業を受けもつことは無くなりましたが、平良初男先生の言葉を胸に刻んで頑張っております。



平良初男先生の瑞宝中綬章を祝って

沖縄県立真和志高等学校
新垣 ゆう子（34期）

平良初男先生、瑞宝中綬章叙勲おめでとうございます。教育者として永年にわたり理化学教育へご尽力されたご功績が、叙勲の荣誉として認められましたことは、私ども教え子にとりましても、大きな喜びであり、誇りでもあります。

お祝いの言葉をとの依頼を受け、どのような表現がいいのか迷いましたが、琉球大学の教え子の一人として先生を紹介することとします。

私が琉球大学理学部化学科に入学したのは1983年4月のことです。学籍番号も183330XXXと歴代で一番長く、更

には 30 名の在籍のうち約半数が女性と
いったとても目立つ学年でした。実際
4 年次の研究室選択でも女性 4 人に対
して男性 1 人と女性が圧倒的に多い研
究室でした。毎日 3 時には午後のコー
ヒーブレイクの時間もあり、華やかな
中にもアカデミックな雰囲気の漂う楽
しい時間を過ごすことができました。
この時間は分析教室の兼島清先生、平
良初男先生、大森保先生に日々の実験
の報告をし、相談をすることができる
貴重な時間でもあり、研究者としての
先生方の生き方や考え方を感ずることが
できる、またとないチャンスでした。
特に初男先生はハワイ大学に留学
した経験があると伺っていたので、私
にとってはあこがれの先生でした。当
時も今も、私は英語があまり得意では
なく、3 年次に受講した初男先生の放
射線化学実習の授業では原書を使った
授業で四苦八苦していたからです。放
射性物質を扱う実験、万が一にも間
違った扱いをすることが心配で、学科
のみんなと夜遅くまで翻訳に追われて
いました。毎週毎週、翻訳しては実
験、翻訳しては実験を繰り返し、大変
でしたが充実していました。そのおかげ
で、今では不得意ながらも英語の本
を手にすることが好きになりました。

4 年次になり初男先生の研究室に配
属されました。放射線に対する漠然と
した興味や見たこともない機材を扱う

ことができることが大きな理由でし
た。それから大学院を含めた 3 年間、
初男先生の下で多くのことを学びまし
た。4 年次の時には不幸にもチェルノ
ブイリ原発事故が発生し、同期の上間
均さんがエアサンプラーで収集したサ
ンプルから放射性物質が検出されたこ
とに衝撃を覚えました。当時、事故の
一報を受け、すぐに初男先生がエアサ
ンプラーの設置を指示していました。
気流に乗って放射性核種がここ沖縄に
も来ることは理解していたものの、本
当に検出されたとき、実証する学問の
重要性と化学に携わる者の責務の重さ
を感じました。

現在、私は高校で教鞭をとっています。
私の教えている化学が直接、生徒
の人生に大きく関わることは少ない
かもしれませんが、しかし、生徒の心に
何かの種を撒きたいと思っています。
それにはタイミングが重要と考えてい
ます。あの日、初男先生がエアサンプ
ラーを設置するよう指示をだしたよう
に、私もタイミングを逃さないで、な
にかを実証し、誰かの心に何かの種を
撒くことができればいいと思っています。

価値観の多様化や規範意識の変容な
ど、教育現場も日々変化しています。
初男先生の下で学んだことを心に、こ
れからも化学に興味を持てる生徒の育
成に頑張っていきたいと思っています。



堀内敬三先生を偲んで

堀内敬三先生をしのんで

琉球大学理学部海洋自然科学科
教授 上江田捷博

堀内敬三先生は、入院からわずか約一か月の闘病の末 2017 年 10 月 20 日に 62 歳という若さで急逝されました。ご本人の無念と、ご家族の哀しみを思うと言葉がありません。衷心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

堀内先生は、1986 年 3 月に名古屋大学大学院博士課程を修了し、同年 6 月に琉球大学教養部助手に着任され、化学実験を担当しました。同講師、理学部助教授、同准教授を経て 2006 年 4 月には同教授に就任され、物理化学分野の主要科目を担当されておりました。31 年もの長きにわたって琉球大学で化学教育・研究に携わり、その発展に貢献してまいりました。

堀内先生は、化学の啓蒙や化学教育に熱心に取り組まれ、多くの公開授業、公開講座、出前講座、サテライト公開講座を担当されました。社会とのつながりも大事にされていてホームページをお持ちでした。担当科目の物性物理化学 A 講義ノート、物理化学 II－熱力学入門－講義ノートなどが一般公開されており、教育への熱意が感じられます。研究においては、結晶中でのイオンや電子の運動を研究し、物性研究分野に大きく貢献しました。有名な国際誌などに多くの論文を発表されています。また、権威ある実験化学書「日本化学会編 実験化学講座（丸善）」に分光Ⅲ（核四極共鳴）を執筆されています。

堀内先生の部屋が整然と片付いていること、様々なデータの保存・整理が行き届きすぐ取り出せるようになっていたのには、私はいつも感服していました。学会や理学部の役職を厭わずに引き受けられ、それらの運営に尽力されました。年長の私より先に主任や学科長を務められ、私がそれらの役職に就いたときには時折相談にのっていた

いただきました。

私事ですが、私は名古屋大学理学部大学院修士課程を修了し、1981 年 4 月教養部助手に着任しました。その 5 年後同大学院から堀内先生が教養部化学に加わりました。当時、現沖縄女子短期大学教授の稲福純夫先生が非常勤講師として化学実験を担当されており、年齢の近い私たち 3 人は、みどり屋食堂や与那原そばでよく一緒に昼食をとったものです。数人の卒論学生も含めてのガーデンパーティや海洋博記念公園への遠足（写真）はよく覚えています。稲福先生の沖縄女子短期大学への赴任後交流は次第に減っていき、最後に 3 人が集ったのがいつだったかは昔のことで定かではありません。ところが不思議なことに、堀内先生の入院する 1 週間くらい前、まさに十数年ぶりに稲福先生が突然私たちを訪ねて来られました。久しぶりの再会に 3 人で話し込み、翌週にはいっしょに食事をする予定でした。堀内先生が急に入院されたため、みどり屋食堂での会食はかなわず、浦添総合病院でのお見舞いとなってしまいました。それでも、短い期間でしたがいろいろなかたちで旧交を温め、稲福先生と私がそろって堀内先生をお送りすることができました。

堀内先生、大変ご苦勞様でした。安らかにお休み下さい。



海洋博記念公園にて
（左から三人目が堀内先生）

堀内 敬三 先生を悼む

琉大化学における教育へのご貢献

琉球大学理学部海洋自然科学科
准教授 漢那 洋子

昨年 2017 年（平成 29 年）10 月、私たちは、全く予期せぬ形で堀内先生にお別れを申しあげることになってしまいました。ご病気による急なことで大変ショックでしたが、「堀内先生がどうしてご病気に…」と、現在もやりきれない思いでおります。

堀内先生は近年、沖縄県理科・化学教育懇談会の会長を、また、化学系内においても教務委員長を務められる等、学内外の化学教育や化学普及活動に大きなご貢献をなさいましたが、それ以前より様々な取り組みをなさっていました。先生には、私自身も、同じ物理化学分野の教員として大変お世話になって参りましたが、化学教育や化学普及活動およびカリキュラム関係への取り組みに関してもいろいろとご指導をいただいております。

先生に始めてお目にかかったのは、1995 年、私が本学の教養部化学教室に採用された折でした。当時、先生は助手から講師に昇任されたばかりで、共通教育の「化学実験」を週に 3 クラスをご自身でも担当しながら、「化学実験」全体（前後期の合計 20 クラス全般）の統括として準備や管理運営をなさっていました。先生の担当クラスと統括の役目を、私が引き継ぐことになったのですが、これが大学教員としての教育活動に関して先生からご指導いただく最初の事となりました。引継ぎに際して、「化学実験」準備マニュアルを一緒に作成しようということになり、この時、先生の指導の下で作成したマニュアルが現在に至る「化学実験」運営体制の基盤となりました。それまでに先生がメモ書きなさった準備要領を基に、毎週、私が各実験テーマの準備を実際に実施してみながら手順を書き起こし、これを先生と読み合わ

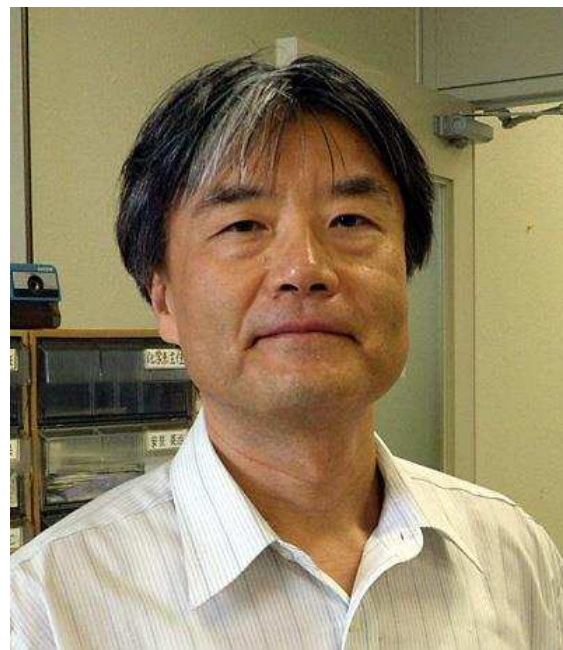
せして添削してもらい、ということをして 1 箇学期のあいだ続けて繰り返し、できあがった準備マニュアルを使って次の 1 箇学期に再度、実験準備をしながら、先生と確認しながら改訂して完成させていく、ということを行いました。この方式は先生のご指示だったのですが、その後も様々に教育や教務の仕事をご一緒させていただくなかで、教育の仕事は、こういった地道なことの繰り返しや積み重ねなのだと実感させられ、先生のそのような有り様やなさり方に教育研究に携わる人間の本来あるべき姿を教えられたように思います。作成した準備マニュアルが、その数年後、又吉先生、米蔵先生と共に行なった「化学実験」運営体制の改編を可能にし、その作業を容易にしましたし、その後も、これをもとにした準備マニュアルに改訂を加えながら現在の「化学実験」担当の若手教員が運営にあたっています。堀内先生の示唆・ご指示・ご指導であの折に準備マニュアルが整備されていなければ、「化学実験」運営体制の改編には非常な困難と時間を要してなかなか成しえなかったでしょうし、若手教員が様々な議論をしつつ前向きに実施しているような現在の展開にはなっていなかったであろうと認識しています。その源流に堀内先生がいらっしゃるということなのです。



1996年には改組により、堀内先生も私も他の教養部化学教室の先生方と共に理学部化学系に配置換えになりました。それから先生は、助教授、教授、とご昇任され、特に物理化学分野の専門科目の学生実験や講義を担当されていらっしゃいました。「物理化学実験」は、先生が助教授の間のご担当でしたので、担当をご一緒させていただいたのは短い期間でしたが、教授に昇任なさる少し前から物理化学の必修講義を担当なさるようになり、ご自身の講義ノート年々アップデートしていかれる様子を学生たちの様子から感じておりました。ここ10年間近く、必修の「物理化学Ⅰ」と「物理化学Ⅱ」を担当されていましたが、学生たちから、「堀内先生の講義は分かりやすく、先生の講義ノートも自学自習の時に勉強しやすい」という話をしばしば聞きました。特に、真面目に学業に取り組んでいる学生ほど、そのように感じている様子で、物理化学が苦手という学生の多いなか、これは凄いいし素晴らしいことでした。「物理化学Ⅱ」のほうは私が引き継いで担当することになり、堀内先生の担当の時に履修した学生に講義ノートを見せてもらったのですが、なるほど、と思いました。「1時間の講義のために、15時間の準備が必要である」(実際にこれだけの時間を取ることはほとんど無理なのですが)という話があると恩師に聞かされた経験があるのですが、堀内先生の講義ノートには、そのように講義に対して常に真摯に向き合いコツコツ取り組む、昔ながらに高等教育を担う誇り高い大学教授の気概のようなものを感じました。

堀内先生の発案で数年前に物理化学分野で立ち上げたオムニバス形式の専門科目があります。「アドバンスト物理化学」という科目です。物理化学を敬遠する学生も多いのですが、実際には様々な分野の化学研究において物理化学の概念が重要な位置を占めており、興味深い物理化学の研究も多いわけで、各教員がトピックスをそれぞれ3回ずつ講義しようということで堀内先生を筆頭に、米蔵先生、玉城先生、東

先生、漢那の5名の物理化学教員で実施してきましたが、現在は残された4名で頑張っています。計画の段階で、私たちを集めた会議の席において、この講義の趣旨として堀内先生のおっしゃった“物理化学の魅力を語る”という発言が印象に残っています。



個別の講義や学生実験だけではなく、堀内先生は長らく化学系の教務委員としてカリキュラムや教務関係の多くの仕事に携わってこられました。この5～6年間ほどは教務委員長として、2013年～2014年頃にかけて先生の主導なさった『化学系の履修プログラムの策定』と『物理化学分野カリキュラム改訂』の2つが特に大きな仕事であり、先生のご貢献でした。『化学系の履修プログラムの策定』では、化学系専門科目のうち選択科目を“基礎科目”と“発展科目”に分類、前者を学習目標達成のため特に履修が推奨される、より必修度の高い科目として、選択科目間に濃淡をつけ位置付けをはっきりさせるよう議論を導きました。これは、学生に対してのみならず、私たち教員にとっても選択科目のうち何が何でも必ず開講・提供しなくてはならないコア科目とすべき科目を厳選する良い機会となりました。『物理化学分野カリキュラム改訂』においては、それまで多くの選択科目が乱立したような状態となっていた物理化学分野のカリ

キュラムについて、学部の物理化学で修得すべき内容を精選して科目の整理統合を実施、それに伴い各科目の繋がりを系統的に示せるようカリキュラムを構成し直し、更に全体的に履修時期を前倒して、他の化学系分野の科目の基礎とできるようにしました。現在、学内外でカリキュラム改革の動きが始まっているなか、大学教員の削減をも迫られており、もし、上記のような改革を先生が推し進めてくださっていないければ、私たち化学系の教員は今後、とんでもなく大変な状況に陥ることになってしまっていたことと思います。上記のような動きに伴って、化学系のカリキュラムや実施・担当体制も見直す必要が出てくる中、堀内先生の教務委員長時代に、ある程度、科目の統廃合・整理などが進められて議論もしてきておりますので、私たちは、そこから先を考え対処すれば良く、全く何も行っていないところから始めなくても済むようになってきていると思います。

このように先生が、大学のおかれた状況や今後の予測される動向から、教育やカリキュラムおよびその実施体制が影響を受けることを念頭に、化学系内のカリキュラム改訂を先導してこられた面があったことの証左だと感じています。私自身は、『物理化学分野カリキュラム改訂』の過程において、堀内先生のご指示・ご指導の下で、化学系全体を巻き込んで議論を進めるための他大学のカリキュラムの調査や資料作成を実施したことが非常に勉強になり、記憶にも残っておりますし、たいへん有難く思っています。『物理化学分

野カリキュラム改訂』の作業は、その前年に宇地原先生と宮城先生のお二人の物理化学分野の教授が同時に定年退職を迎えたということもあり、その折およびその後に堀内先生から何度か、数年後にご自身が定年退職した後に教員の補充ができず、残った物理化学メンバーで分担して担当しなくてはなくなる可能性があるから、科目の精選・整理統合をしておく必要がある、とおっしゃっていたことが思い出されます。ご自身が定年退職した後のことも心配・配慮してくださっていたことを思うと、どのように感謝申しあげてよいかわかりません。

堀内先生は化学系内だけではなく、大学全体の全学学士教育プログラム委員会にも化学系選出の委員として当初から（8年ほど前からになるでしょうか）参加していらっしゃいました。学士の質保証という大学に対する社会的要請から、本学では URGCC (University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum (琉大グローバルシティズン・カリキュラム) の略式表記) という形で取り組むことになり、その化学系委員を務めていらしたわけですが、そこで、化学系学士教育プログラム（つまり学部の化学専攻）におけるアドミッションポリシーやカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよびアセスメントポリシー、それぞれの策定、またそれら同士の整合性、更に、URGCC の 7 つの学習達成目標と化学専攻の学習達成目標や各科目との対応関係の策定等々、実にこまごまとした仕事・作業があったようですが、化学系内の意見や議論をまとめつつ、これらを最初の段階から実行なさいました。2015 年に堀内先生が化学系主任になったこともあり、先生の理学部教育委員の残りの任期と共に上記の URGCC 委員も私が引き継ぎましたが、この委員の初期段階を堀内先生が務め、化学系学士教育プログラムの骨格を URGCC の枠組みの中で作りあげてくださっていたおかげで、私でも後任として何とかなっています。そうでなければ、私では到底、委員は務まらなかったと感じ



ています。

堀内先生は、学外を対象とした化学教育・化学普及活動等にも熱心に取り組んでいらっしゃいました。

教員免許更新制の導入に伴い 2008 年度から開始された教員免許状更新講習において、初年度から毎年講座の提供を続けていたのは、化学系からは先生と私だけでしたので、別々の講座の提供ではありましたが、とても心強く感じておりました。



琉球大学公開講座「化学への招待」の提供にあたっては、私たち 9 名の化学系教員をまとめ、実際の開講に導いてくださいました。沖縄県理科・化学教育懇談会会長の折には、4 年に一度の「化学への招待」（日本化学会九州支部化学教育懇談会）も主催なされ、参加した中学生に大学で化学の実験等を体験する機会を提供されました。

これら以外にも先生は、個人的にも様々な形でかなり早い段階から化学普及活動に取り組んでいらっしゃいました。大学の高大連携事業へ講座を複数、出前講義の依頼に応じられるよう提供していらっしゃいましたし、生涯教育の一環として、先生個人でも公開講座を提供、また一般の方へ正規の講義を公開する公開授業として担当講義の幾つかを提供していらっしゃいました。このような堀内先生の取り組み・なさりを拝見、お手本にして、私も近年、同様に行っている次第です。

2015 年、堀内先生が化学系主任を務めていらっしゃる年に、私、偶然にも

勤続 20 年を迎え、大学からご褒美をもらいましたが、その折にメールにて主任の堀内先生および化学系事務室の上原さんと手続き等のやり取りをしているなかで、堀内先生より「教養部で採用になってから 20 年経つんですね。ご苦労様です。これからもよろしく。」との言葉をいただき、私も「今後ともご指導よろしくお願い致します。」と申しあげ、これからも様々な場面で、特に教育への取り組みや教務関係の仕事でいろいろと教えていただくつもりでおりました。私だけではなく、化学系の他の先生方も皆、先生を随分頼りにしておりましたので、本当に心許なく、とても心細い思いがいたしております。病気に先生を奪われてしまい、大変悔しくてなりません。

化学系では、1996 年の改組で小講座制から大講座制になったこともあり、先生方の定年退職にあたって行なう最終講義を始めとした一連の催しを近年は、各分野の教員が中心になって企画・段取りをしております。堀内先生が定年退職の時には、私たち物理化学分野の教員がこれまでの感謝を込めて一生懸命準備させて頂こうと考えておりましたのに、こんなに早く、しかも永のお別れとなってしまう、残念でなりません。

堀内先生のやすらかな眠りと奥様やご親族の皆さまのご健康および、堀内研究室で先生の指導を受けた卒業生・修了生の方々の今後一層の発展をお祈り申し上げます。



あれから

3 2 期生の近況と思い出

市職員の仕事

那覇市役所監査委員事務局
波平 治（32期）

みなさん、こんにちは。1985年卒業の波平治です。現在は那覇市役所で監査委員事務局長を勤めています。那覇市役所に採用されてから33年目になります。

私はもともと教員志望だったのですが、まじめに勉学に励む同期に比べ、部活（弓道）三昧。母校での教育実習は楽しかったのですが、肝心の採用試験は十分準備もせず、当然不合格。理科の教員採用は当時から狭き門で、結局あきらめてしまいました。

1年間、民間の環境測定会社に勤めたものの、地元で貢献できる仕事をとおり、あらためて那覇市の職員採用試験を受け、運よく合格しました。ただ、当時は合格と採用は別物で、私も4月には採用通知がなく、1か月遅れでやっと採用されました。後から聞くと、合格したのに欠員が出ず、結局採用されなかった人がいたとか。

市役所の仕事は本当にいろんな分野があり、住民戸籍、税、医療福祉、教育、

都市計画、議会など、それぞれの分野はそれぞれの法律に基づいて進めなければならないため、3、4年ごとの人事異動は、転職するような感じです。でもそれぞれが住民の生活に直結しているので、大きな責任が伴うと共に、住民の要求も年々高まっています。一方で、これまで市役所職員のイメージであった、窓口での証明書発行や通知文書の作成・発送、電話での督促など定型業務は、すでにアウトソーシングされているものもあり、今後ますますその仕事のしかたが変わっていくでしょう。

私は、化学とは直結しない仕事についていますが、一度だけ経験が役立ったことがあります。環境保全課という部署にいたときに、市内の小学校の5年生のクラスが河川環境の調べ学習で話を聞きに来たので対応したところ、発表会に招待され講評させてもらったことがあります。その後ももらった子供たちの感想文集が今でも宝物になっています。

広島へ戻って思うこと

広島県立竹原高等学校
江本 良時（32期）

私が大学に入学したのは今から37年前のことになります。そして卒業後同窓会誌を見る機会が多くなりましたが、その頃はまだやがてその当番が私達にやって来るなどとは夢にも思っていませんでした。しかし、もう私達の学年が琉大同窓会を担当する時がやって来たのです。

思い返せば、学生時代からここまで、私はいったい何をやってきたのだろうかとも思います。一方、よく覚えている場面では、あの時は一生懸命だったなど

も思います。そしてこれから次世代のために何をしなければいけないのか、或いは残せば良いのかと考えるのです。でもむしろ今後は若い次世代の方々から何かと教えてもらい、同時に足手まといにならないようにしないといけないなあとも思うのです。

私の出身地は大学からは遥かに遠くにあります。或いは私は自宅からはずいぶん離れた大学で学ばせて頂いたとも言えます。私は大学に進学するまでは山間部の生活で、今の勤務先が沿岸部で、

私から見れば大学も勤務地も自宅から見れば温暖で、どちらも似たように思え、毎日沖縄に通勤しているようなイメージがあります。また、結局私は大学で学ばせて頂いたことをそのまま使うような仕事に就いたため、これはこの時学んだとか、これはあの友人に教えてもらったとか、いつも思い出しながら日々を特に最近過ごしています。これからも似たような状態が続くでしょう。大学から遠く離れた地での生活ですが、これからも大学と沖縄を背中合わせに感じながら過ごします。皆さん共に頑張りましょう。

付記

この原稿作成期間中の去った7月、例の大雨災害に遭遇しました。私自身当日は、毎年よくある大雨と判断し、通常通りの仕事をして帰宅しました。ところが、予報通り数十年に一度となるまさに私自身経験したことのない降り方となり、通勤路は至る所で増水、土砂崩れで寸断され、帰れなくなりました。その深夜余儀なくした車泊でかかってきた同級生からの電話やメール等は、さすがに身の危険を感じていた私を元気づけてもらいました。今思い返しても誠に有り難く思っています。

工業高校・定時制高校の実情

沖縄県立美里工業高等学校
川満 裕史（32期）

もうすぐ平成が終わり、新しい時代が始まろうとしています。私自身、いつの間にかごく少数派となった昭和採用組です。この間に行政を含め、7回の異動を経験しました。せっかくの機会なので、これまでの勤務校の中で、ほとんどの同窓生が実情を知らないであろう、工業高校と定時制課程について紹介したいと思います。

工業高校では、機械科や電気科など専門学科に分かれています。良くも悪くも基本的な考え方として、「科の生徒は、科で面倒を見る」というスタンスが貫かれています。

普通高校では、教科担任が別の科目で同じクラスを担当することはほとんどありませんが、専門高校では、ごく普通に行われています。1校時に「設備設計」の授業をし、2校時には同じクラスで「設備応用」の授業を行うといった具合です。また、「実習」や「課題研究」等においては、3～5時間連続となります。そのため、職員と生徒の心理的距離は近くなり、中には、科の職員以外の職員の指示に従わないこともあります。必然的に、生徒指導においては、当該科の職員が中心となって行われ、それぞれの生徒

の特徴に応じた指導を行っています。進路指導でも同様で、一般教養、作文、面接指導も教科の枠を超えて、科の職員で対応します。そのため、毎年のように担当者が変わる普通科とは異なり、企業や大学等と長く付き合いのある職員も多く、ノウハウの蓄積があります。「工業高校は、科の数だけ学校が集まっている」と言われるゆえんです。

専門分野の学習内容は、部分的に普通科の物理の範囲を超えています。そこで、座学よりも実習や課題研究に力を入れています。実習では、生徒40人を4グループに分けてグループごとに異なる課題をこなし、ローテーションですべての課題をこなしていく方法をとっています。作業が遅く予定期間内で終了できなかったり、欠席があったりすると、放課後や夏季休暇中に遅れた分を取り戻すなど、徹底した技術指導が行われます。

さらに、検定・資格試験対策、工業系競技大会（ロボット相撲、電子回路組み立て、配管等）に向けた練習に対しても、時間を惜しまず指導しています。

そして、これら実習を指導している教員のほとんどが、普通科の出身で元々技術を持っていたわけではありません。大

学でも技術を身につける時間はほとんどなく、専門外の分野配属されることもあるため、放課後や長期休業中などに自らの技術習得にも熱心に取り組んでいます。本当に頭が下がります。

進学に当たっては、工業高校で培われた技術力が大学でも評価されているようで、私立大学の推薦入試では、工業高校の特別枠の試験で一定以上の成績を取ると、授業料等が全部又は一部免除される制度もありますし、国公立大学でも工学部に対して工業高校からの特別枠も少なくありません。中学卒業時点で、目標がはっきりしているのであれば、工業高校で技術を学び、工業大学で理論を学ぶことで、より実践的な技術者を目指すのも悪い選択肢ではないと思います。

さて、ここからは、話題を定時制課程に移しましょう。

かつて、「働く人たちの学校」といわれてきた定時制課程は、現在様変わりしています。私が初めて定時制に勤めたころは、確かに自営業、会社員といった定職を持った年配の方がある程度在籍し、中学校を出たばかりの若い生徒を叱咤激励し、学級をまとめていました。最近では、40代以上の生徒はほとんどおらず、アルバイト勤務か無職です。10代のやんちゃな子たちは、大幅に減少し、主体は不登校経験者や家庭的・経済的に恵まれず、学ぶことへの意欲が乏しい子たちです。不登校を続ける生徒もいますが、似たような境遇の仲間に気が許せるようになるのか、それとも生徒と職員の関係が近くなるせいなのか、不登校だった

ことが嘘のように、皆出席やそれに近い状態で卒業を迎える生徒もいます。小中学校で級長どころか班長すら経験のない生徒が生徒会役員として、生徒会行事の運営に当たったり、全生徒の前で堂々とあいさつしたりするなど非常に大きく成長するケースも見られます。

ほとんどの定時制課程では、3年で卒業可能です。全日制に比べ、授業時数が少ないのにもかかわらず、3年で卒業できる理由は、資格・検定やアルバイト、ボランティア活動等を単位認定したり、夏季休暇中や始業前に正規の授業を受講したりすることで、3年間で卒業に必要な単位を修得できるシステムとなっているためです。

結果的に、4年生になるとそれまでに取りこぼした科目を受講することが多くなり、空き時間が増えることにもなりますが、必修科目の未履修や修得単位数不足等で、卒業まで5～6年かかる生徒もいます。最終的に約6割の生徒が無事卒業までたどり着けますが、その際の感動は何事にもかえがたいものがあります。卒業式で行われる、卒業生一人一人のスピーチを聴くと「定時制は高校教育の原点」という言葉をかみしめることができます。

専門高校、定時制課程いずれも、高校時代縁のなかったところですが、勤めてみて、人それぞれに必要とされていることが実感できるようになりました。定年までの残された期間をこれからも精一杯勤めていきたいと思っています。

33年目の夏

沖縄県環境部環境整備課
松田 了（32期）

琉球大学を卒業してはや33年の月日が流れました。「光陰矢のごとし」とはよく言ったもので、「少年老いやすく学成りがたし」を切実に感じている今日この頃です。

無機化学研究室で錯体の合成に明け暮れ、白衣だけでなくいつの間にかズボンやシャツにまで試薬が飛び散って、穴を空けてしまった事を思い出します。

指導教官であった普久原朝喜先生は、いくら実験しても予想どおりの結果を生まない私を我慢強く指導くださり、また、桂先生には私が就職内定を蹴ったことで企業から苦情が入り、大変なご迷惑をお掛けしました。

この場を借りて改めてお詫び申し上げますとともにご指導頂いたことに感謝したいと思います。

在学中は教職を目指していた私ですが、採用試験に向けた勉強もせず、当然の事ながら就職浪人の道を歩むこととなりました。

その後、県工業試験場(現工業技術センター)や財団法人沖縄県環境科学センター(現一般社団法人沖縄県環境科学センター)で非常勤職員として勤務することとなり、環境関連の業務に魅力を感じたことから技術職(化学)で県庁へ入庁しました。

最初の勤務地は八重山保健所で環境衛生監視員という職種でした。公害(事業所排水、工場のばい煙などの監視)や環境衛生(ホテルや理容所などの衛生監視)関連業務に従事し、三年後、本庁へ異動となり、その後は本庁で勤務しています。

県環境部は現在5課3室あり、環境アセスメント、地球温暖化対策、公害対策、自然保護、廃棄物対策、また、基地環境問題や世界自然遺産登録、全国育樹祭などの特命案件も担当しています。

県庁ですずっと環境関連業務に従事してきましたが、いつも順風満帆という

訳ではありませんでした。時には理不尽な上司が意見を聞いてくれず反発したり、思うような成果が上がらず悩み苦しんだり、また、大きな事業を無事に終える事ができてスタッフと喜びを分かち合ったり、様々な経験を積むことができ充実した社会人生活だったと思っています。

今、琉大で化学を学んでいる皆さんには、是非、化学の根本にある科学的な思考方法を身に付けていただき、社会に出たらそれを仕事や私生活に生かして欲しいと思います。

そのうえで、正しいことであれば、相手が上司であっても是非、主張してください。主張することは若者の特権です。若いうちは生意気ぐらいがちょうどいいと言ったりしますが、主張することはエネルギーが必要なので、若いうちに主張する訓練を積まないと、いつまでたっても主張することができず、長いものには巻かれろという人生になってしまいます。

職場では上司も部下も同僚も皆あなたの事を見ています。誠実な気持ちで理論的に主張すれば、あなたの主張は、上司にも受け入れられるでしょう。

私も正しいと思うことは主張してきました。そのために苦労することが在りましたが、後悔はしていません。

若い方にも是非、後悔のない人生を歩んでいただきたいと思います。

社会人経験から伝えたいこと

株式会社りゅうせきエネプロ
比嘉 仁志(32期)

仕事とは問題解決である(人生も問題解決の連続)という事を、これまでの仕事や人との関わり、本などを読んで学びました。その事を皆さんに伝え

たいと考えています。

まず、問題とは何か? ある本に「有りたいと考える姿(理想)と現状との差」と、ありました。

例えば、恋人が欲しいと考えている人がいて現状はいない場合、その差を問題と捉えたとの事です。恋人が欲しくない人にとっては、いなくてもそれは問題では無いのです。

ありたい姿（理想）が有ってはじめて問題となる、望みや理想の姿が、その根本にはあるのです。その事から、問題解決とは、その差をなくす行動という事になります。

仕事では、お客様の考えている有るべき姿（理想）と現状との差を少なくしたり、無くしたりする行動という事になります。

人が生きて行く事も、そういう意味で、問題解決の連続で、それは理想とする姿へ、自分自身を近づけるための行動です。

そこで仕事について重要な事は、お客様の理想は何かという事を、できるだけ正確に把握する事です。要望と違う事に対応しても評価はされません。

その要望を把握するために、化学的な手法（？）を使う事があります。それは相手の反応や変化を見て、その判断基準を推測するというやり方です。会話中の言葉やデータなどへの反応や変化から、要望（理想）を推測、確認するようにしています。その後、現

状にどういう試薬（反応させる条件や言葉掛け、行動）を加えて、理想との差を近付けるための変化を起こさせるかです。変化を観察する事は、学生時代に実験で目を凝らして観ていた事に似ています。学生時代の成績は良くなかったですが、社会に出て、化学科でやってきた事や考え方が活用できているかなと思います。

もう一つは、人は組織で、仕事や生活をしています。その組織の中での役割をしっかりと把握し、他のメンバーからの期待を受け止めてもらいたいとの事です。組織の中でのあなたの役割は年々変わります、その事も理解し、成長のための行動を続けて頂きたいと考えます。人との関わりの中で活動する事が、大きな成果を上げ易いし、あなたの成長もより望めるでしょう。

皆さんには、学生時代に体力とコミュニケーション能力、問題解決の考え方を身に付けて頂きたいと思います。

親の様な年代の先輩から、皆さんに伝えたい事です。

今、学生時代に一生懸命（?!）学んだ化学は、面白いし、とっても役に立つという事を、感じています。

大学を卒業して関わった仕事について

沖縄県立沖縄ろう学校
幸地 英之（32期）

大学を出て初めて就職したのが沖縄県土木建築部那覇下水処理場でした。もう33年も前のこと。そこには琉大化学科の先輩で桑江良光さん、西浜完治さんがいて、水質管理の業務を一から教えてもらいました。大学の頃には、同じ実験を数回しかやらないですが、現場では繰り返し何度も行うための工夫がされていたことや、私の測定技術に問題がないか、一緒に確認して鍛えてもらったこと

で、3年間ではある程度一人でできるようになり、自信を持てたことが今でも思い出されます。もし、ここであと一年仕事をしていたら、そのまま水質管理を専門として県庁職員で過ごしたかもしれないという分かれ道だったように思います。

その後、商工労働部工業試験場で1年間トロピカルワイン（パインやグッパなど）の試作製造に関わりましたが、転職

して教員になり、美咲養護学校（現美崎特別支援学校）に採用されました。これまでの化学の知識は使えないという状況になったことから、障害のある子ども達にコンピュータを使わせて障害の改善を図っていくという方向へ動いていきました。平成 7 年（1995 年）に筋ジストロフィーの生徒たちにインターネットを使わせることを始めました。

身体的に障害があっても、知的な能力で仕事をすることができるというのが目的で、障害がある子供たちの方がよりインターネットを必要としていました。

これらの活動から教育庁の方へ行くことになり、平成 13 年から 17 年にかけて IT 教育センターと県立学校インターネットの整備に関わりしました。これも初めての事業ということで、かなり難しい

ところもありましたが、なんとか形にすることができました。これが現在の県立学校の ICT 環境へとつながっています。

理学部化学科以後の経験は、物事の本質を考えて、どのように判断したらいいのかというのを繰り返してきたように思います。簡単にいかないことも多々ありタイミングをつかむまで諦めず待つこともありました。仕事をしていく上で先輩方の叱咤激励や、関わってくれた人の力も大きかったと思います。今となつては、何が一番の専門なのかと言われても、うまく答えることはできないですが、その時その時の仕事を精一杯やったという気持ちで今に至るような気がします。

琉球大学理学部化学科を卒業して

南城市立佐敷中学校
金丸 利康（32 期）

1985 年卒業の化学科同期のメンバーの就職先は、約 1/4 が当時花形産業になりつつあったコンピュータ業界でした。私もその内の一人で、中高の教員免許は取得していましたが、採用試験に落ちたこと、早く就職したかったこともあってコンピュータのベンチャー企業へ学科の友人 3 人とで集団就職？をし、東京へと旅立ちました。

それから 7 年経ち再度、教員採用試験を受験する機会があり中学校理科で受験し、合格することができました。

採用当時、コンピュータが得意な初任者がいるという噂？のおかげ？である頃主流だったワープロのメンテナンスやパソコンの不具合の調査、そして修理など依頼されることが多かったです。しかし、コンピュータの企業（主にプログラマー）にいたからといってパソコンやワープロ関連の仕事をしたことはなく、まったくの素人でした

が、「ノー」と言えず対応する羽目になりました。自分でパソコンやワープロ関連のマニュアルを読んだり、本屋で雑誌や関連書籍を立ち読みしたりして調べ、あれこれと試行錯誤し、実際に不具合がなおった時の依頼者の笑顔をみているとこうちらも嬉しくなり、また、依頼されたりの繰り返しでした。

このように依頼を断らずに対応していった（だんだんとパソコン自体に詳しくなっていく）ことが、今となつては自分自身をステップアップさせた一つの要因だとも感じています。それはつまり、教職に就くまえに、異業種であるコンピュータ関連の仕事をしていたことで、「教員」＋アルファ（コンピュータが使える）があったことが強みとなり結果的に自分自身の自信につながり、そして、それがまわりから評価されることになったと考えることができます。

また、このようにワープロやコンピュータの不具合に対応していく作業事態、大学で学習した定性実験や卒業論文で培った課題解決の手法そのものだったような気がします。そういう意味でも化学を専攻してよかったと思っています。

最期に昔、先輩からよく言われた言葉があります。これらの言葉を心に刻みながら日々業務をこなしています。

「依頼された仕事は断らない。」「だいたい、仕事は忙しい人のところにしか回ってこない。」「うまくいかなかった時は、落ち込まずに自分を選んだ人が悪いなど自分のいいわけを考えて気分を紛らわす。」「世の中、Give and Take」「頼られているうちが花」「波が来たら乗れ、そして乗るんだったらうまく乗れ」と。

3 2 期の思い出









天然物
化学

物理化学

分析化学

有機化学

無機化学



来年度の幹事（３４期）



当時、お世話になった先生方



兼島 清



外間 宏三



桂 幸昭



金城 昭夫



森 巖



平良 初男



与儀 誠一



上原 与盛



渡久山 章



国吉 正之



大森 保



比嘉 松武



普久原 朝喜



宇地原 敏夫



宮城 雄清



仲 嶺 康子



仲宗根 洋子



当間 弘美



比嘉 安子



稲福 純夫



當真 嗣徳

32 期の永山貴啓（815320）です。原稿の受付期間に間に合わずこんな形になりました。申し訳ありません。

85 年に、富士通 S S L に入社し、2016 年に富士通 S S L の子会社である S S L パワードサービスに異動しています。現在、24 時間 365 日のサポート業務として平日は朝勤 07:45～16:30、夕勤 12:45～21:30、夜勤 21:20～08:40 の 3 交代制、土日祝日は前勤 08:00～20:30、後勤 20:00～08:30 の 2 交代でローテーションを組まれます。夜勤、後勤は 3 日間連続となり月に最低でも 1 回はあります。朝勤、夕勤は勤務時間 7:45 なので残業は、殆どありませんが、このローテーションに慣れる年でもないですね。

2000 年に入籍し、双子の男子に恵まれました。勉強らしい勉強もせずサッカーとゲームの日々で、来年は大学生です。次男は A O 入試で決まりましたが、長男は、指定校推薦で 11/3 に面接を控えています。

二人のサッカー人生の中では、『上手いね』と色々な方から声を掛けられた事があるそうです。その中には元 J リーガーの選手もいるようです。それでも重要な試合では結局、負けてしまう事も多々ありました。なので『上手いね』の先にある『半端ない』って言われなきゃ、上には行けないのかなと思っています。果たして大学 4 年間で、その言葉を掛けて貰えるか！しっかり就職と言う事も考えながら 4 年間で過ごしてもらえないと思っています。

子供は女の子の方が良かったと生まれる前は考えていましたが、今ではこの二人で良かったのかなと考えています。結局、子供達の自慢話がしたかっただけのようです。尚、長男は栃木県の矢板中央高校のサッカー部です。まだ、冬の選手権の予選が残っていますが、多分、全国大会に出場する事になると思います。息子が出られるか分かりませんが、覚えていたら矢板中央高校の応援をお願い致します。

以降は、同期の数名がメールでくれた内容です。

32 期の安部純一です。

私も他の仲間と同様に 11/3 は欠席になります。
近況報告もできておらず申し訳ないのですが…手短かに報告します。

役職定年（役職離任）し、ラインから外れ、ノンビリと仕事しています。
現在の仕事は流行りの AI（人工知能）商談支援ということで、全国の製造業を訪問し、ご支援させて戴いております。また、工業組合や各種団体向けの講演も手掛けています。

沖縄には製造業が少ないので出張することはありませんが、Societies5.0 への対応、地方創成など、AI を検討されるときにはご相談下さい。
では、皆様のご活躍とご健勝、今回の総会の成功を祈念しております。

32 期の澤正仁です。

会社メールの為セキュリティの関係上全員に返信できていないと思います。
返信を受けた方は状況を伝言して頂けたら幸いです。

近況について卒業してから連絡もしておらず今更報告する事無い為送付していません。
申し訳ありません。

また、1 1 月3日は不参加です。
重ねて申し訳ありません。



2018/1/15（西岡君上京@新橋）安部君、西岡君、喜友名君、澤君、永山撮影

現役学生から

学生生活を振り返って

海洋自然科学科 4 年次
禰覇 盛斗

この原稿を書いている今、私の人生最後の夏休みが終わろうとしています。今こうして大学4年間を振り返ってみると本当にあっという間でした。

私は大学入学と同時に地域の青年会に入り、青年会活動として、エイサーや十五夜での伝統芸能、地域のスポーツ大会である体協など数々の地域行事に参加してきました。年々と会員が減っていく中、去年と今年の二年間、会計を勤め、会長らとともに幹部としてお盆祭りの運営を行いました。一つ一つの行事を企画・運営することの大変さを痛感すると同時に、とてもいい経験ができたと思います。しかし、1つ後悔していることは、毎年4月から8月下旬のお盆の時期までは、ほぼ毎週日曜日にこれらの活動が入り、友達とあまり遊べなかったことです。何度か誘われた旅行も、何かしら予定と重なったりして結局一度も行けずに大学生活の終わりが近づいてしまいました。卒業旅行だけは絶対行けるようにして、後悔のないように大学生活を締めくくりたいです。

学習面では、GPAオールAを目指して頑張っていました。が、現実はそう甘くありませんでした。それでも自分なりに一生懸命取り組むことができました。また、私は1年後期の段階で化学の分野で生きていく選択肢が見いだ

せなかったため、公務員の行政職の道に進むと決め、少しずつ勉強を始めました。2年後期からは公務員講座を受講し、法律や経済など、化学と全く逆の分野の勉強を、大学での化学の勉強と並行して頑張りました。そしてこの度、無事に国家公務員一般職試験に合格し、沖縄地区税関に内定をいただくことができました。

化学系の皆との思い出はたくさんあります。入学後すぐに皆仲良くなり、新歓やペンション、琉大祭での出店などあらゆる行事を楽しむことができました。また、学年合同ペンションが開かれるくらいに学年を超えても仲が良く、先輩、後輩として他学年との交流ができたことはとても良かったです。ただ、3年次以降は試験勉強に追われていたため、新歓などに参加できず、後輩との交流ができなかったことを残念に思います。

卒業を控え、それぞれが社会人あるいは進学の道に進みます。1年次の時、授業が終わると皆食堂に集まって日が暮れるまでおしゃべりしていたことが懐かしく、もうあの頃には戻れないと考えるととても寂しく感じます。子らから咲き、皆で集まる機会は滅多にないと思いますが、化学系の同期としての繋がりを大事にしていきたいです。



1年の5月、私の誕生日を皆で祝ってくれました！！

化学系に進学してから

博士前期課程 1 年
与那城 仁

私は平成 26 年に 65 期生として化学系に入学しました。私が化学系に入学しようと考えたのは、高校 2 年生、3 年生の時の化学の先生（琉大化学卒の眞壁慎治先生）が、当時の私にとってとても難解で不思議な世界であり苦手だった（それは現在も変わらないが）化学を、苦手な私でも理解できるように巧みに指導してくれたという経験があったからです。このときの指導のおかげで当時の私は、理解できなかったことが理解できたときの感動や、不思議な世界を理解しようと試みることの楽しさを感じることができました。私が感じた感動や楽しさを、今度は伝える側になってみたいと思い、化学の教員になるという目標を掲げ化学系に入学しました。

しかし、大学生の生活は思った以上に新しい発見が多いものでした。様々な人との交流や国内外インターンシップへの参加、化学の授業、教職の授業等を経験していく内に、本当に自分は教員になりたいのか、なるべきなのかを改めて考えるようになりました。加えて専門の授業のレポートやテストに追われ、機械的にノルマをこなしていくようになり、化学が楽しいと無垢に感じていた高校生の頃の感情が次第に薄れていってしまい、徐々に教員以外の道も考えるようになっていきました。

将来のことでモヤモヤと悩んでいる内に 4 年生に進級し、研究室に配属されました。配属された藤村研究室では、迫る海洋酸性化に対するサンゴ礁石灰化速度の自然変動の調査を行いました。そこでは、藤村弘行先生の指導の下、計画を立て、サンプリングに行き、測定を行い、結果を考察しまとめる。といった、研究の一連の流れを始めて経験することができ、地道にデータを取り、考え、自然という途方もな

く不思議な相手を理解することの難しさを学ぶことができました。それと同時に、忘れかけていた化学の楽しさを思い出す。というよりは、無垢に楽しいと感じていたあの頃より少しだけ、より具体的に感じるできるようになったと思います。

現在私は博士前期課程に進学し、同研究室で 4 年生の時の研究を引き続き行っています。大学院に進み研究の深化を、そしてもっと専門の勉強をしたいと考えたからです。毎月、潮の引く時間帯を狙って本部町瀬底島へ行き、礁池でサンプリングや測定を行っています。4 年生の時よりは研究室にも慣れ、徐々に自分のすべきことが輪郭を帯びてきたと感じます。しかし、まだまだ未熟者、これからより一層研究活動に尽力していきたいと思っています。また、一度は気持ちが離れていた化学の教員という道も考え直しています。研究室に配属されて以降、化学、特に自然化学に、より興味を持つようになり、勉強を進めていく上で新たな発見や感動があったとき、高校生の時のあの化学にわくわくしていた気持ちを思い出すからです。

今私は、人生の節目の一つに立っています。将来の自分についてはまだあやふやですが、化学系に進んで悔いの無い学生生活だった。と言えるように、毎日の生活を懸命に過ごしていきたいと考えています。



瀬底島西海岸の礁池にて採水の様子

資 料 編

「写真で見る50年の歩み」より



琉球大学開学の門 1950年(昭和25)



琉球大学全景 1961年(昭和36)



琉球大学全景 1961年(昭和36)



登録風景(体育館) 1966年(昭和41)



琉球大学千原キャンパス 1992年(平成4)



琉球大学第1回卒業式挙行 卒業生(26名)記念撮影 1953年(昭和28)3月20日



琉球大学卒業式 2003年(平成15)



琉大同窓会総会 新旧学長就退任激励会
1996年(平成8)6月29日

新規会員名簿（平成30年度）

研 究 室 名	氏 名	出 身 校
棚 原 研 究 室	佐 久 川 秀 明	池田学園池田高校
	波 平 貴 彦	興南高校
	赤 嶺 盛 哉	沖縄県立那覇高校
東 研 究 室	倉 奥 大 樹	春日部共栄高等学校
	比 嘉 未 香 子	沖縄県立那覇西高等学校
	伊 藤 禎	千葉県立成東高等学校
米 蔵 研 究 室	金 城 宇 聡	沖縄県立首里高等学校
	漆 戸 一 夢	札幌啓成高等学校
	我 如 古 梨 乃	沖縄県立開邦高等学校
高 良 研 究 室	矢 野 智 郷	沖縄県立八重山高校
土 岐 研 究 室	新 垣 典 之	沖縄県立向陽高等学校
又 吉 研 究 室	宮 城 一 眞	昭和薬科大学附属高等学校
中 川 研 究 室	大 濱 善 寛	沖縄県立八重山高等学校
	吉 田 哲 郎	沖縄県立向陽高等学校
	宮 城 陽 香	沖縄尚学高等学校
	川 上 潤 子	沖縄県立開邦高等学校
石 田 研 究 室	下 地 彩 乃	沖縄県立南風原高等学校
	豊 里 一 哲	沖縄県立コザ高等学校
	栃 真 賀 迅	札幌光星高等学校
新 垣 研 究 室	運 天 佑 哉	沖縄県立那覇西高等学校
	久 手 堅 正 義	沖縄県立那覇高等学校
	岸 本 航	昭和薬科大学附属高等学校
荻 原 研 究 室	赤 嶺 保 幸	沖縄県立球陽高等学校
	赤 嶺 良 樹	沖縄県立浦添高等学校
	高 橋 昇 流	熊本マリスト学園高等学校
鈴 鹿 研 究 室	恩 田 馨	愛知県立三高校
	又 吉 南 帆	沖縄県立首里高校
	古 謝 楓 子	沖縄県立首里高校
有 光 研 究 室	遠 藤 克 己	興南高校
	砂川デニゼ恵美	沖縄県立那覇国際高校
	新 垣 竜 之 介	沖縄県立具志川高校
上 江 田 研 究 室	高 久 晴 香	沖縄県立首里高校
	森 下 穂 香	石川県立七尾高校

安里研究室	堀川圭樹	私立高知学芸高等学校
藤村研究室	高久公平	沖縄県立コザ高等学校
	金子陽香	大妻嵐山高等学校
	又吉理絵	沖縄県立那覇国際高等学校
玉城研究室	禰覇盛斗	沖縄県立向陽高等学校
	仲宗根航	沖縄県立向陽高等学校
	越間恒星	沖縄県立那覇高等高校
植村研究室	中野圭介	名城大学付属高等学校
漢那研究室	大城勇斗	沖縄尚学高等学校
	池原悠登	沖縄県立読谷高等学校
	仲尾次豊	沖縄県立読谷高等学校

理工学研究科所属一覧

(M1)

研究室名	氏名	出身大学 (国)	研究テーマ
高良研究室	金城 盛人	琉球大学	タンデム触媒系を用いた海水中における二酸化炭素の水素化反応の実現
有光研究室	儀間 恵美	琉球大学	含フッ素ヘテロ化合物の合成開発
	石川 達郎	琉球大学	含フッ素抗がん剤の合成開発
	SamiraPoorsadeghi	イラン	有機触媒を用いた新規反応開発と海洋天然物への応用
安里研究室	金城 孝博	琉球大学	3d ブロック錯体を用いたニトリル化合物の加水触媒、加水分解触媒の開発
植村研究室	南雲 春馬	琉球大学	鍾乳石の同位体比分析による過去の気候変動解析
棚原研究室	新垣 耀平	琉球大学	環境中の ^{222}Rn 濃度に関する研究
新垣研究室	上地 光貴	琉球大学	台風時における Optical Particle Counter を用いた大気エアロゾルの特性解明
鈴鹿研究室	運天 柁憲	琉球大学	水中での有機変換反応の開発
	大城 勇人	琉球大学	水中機能性触媒の開発

(M2)

研究室名	氏名	出身大学 (国)	研究テーマ
田中研究室	星野 勇那	琉球大学	海洋生物に由来する未知物質の探求
又吉研究室	島袋 泰博	琉球大学	アパタイトとその反応性を利用した LaF_3 固体電解質型溶存 CO_2 センサに関する研究
石田研究室	稲福 周	琉球大学	アミン類メタボロミクス解析による新規アミノ酸代謝の探索
	小那覇 眞子	琉球大学	D-アミノ酸解析法の開発による琉球列島における D-アミノ酸バイオロジーの開拓
荻原研究室	東比嘉 美裕	琉球大学	沖縄産植物の成分研究
有光研究室	照喜納 和翔	琉球大学	有機触媒を使ったハロゲン化反応
安里研究室	楚南 有理華	熊本大学	フェノキシ架橋二核コアと四角酸イオンから構築される集積型金属錯体
植村研究室	上地 佑衣菜	琉球大学	酸素の3種同位体比の高精度分析による降水起源推定

東 研 究 室	根 木 秀 佳	琉球大学	MD シミュレーションと 3D-RISM 理論を用いたシトクロム <i>c</i> の多量化に関する理論的研究
---------	---------	------	---

(D 2)

研究室名	氏 名	出身大学 (国)	研究テーマ
東 研 究 室	山 内 真 梨 江	琉球大学	光捕集複合体サブユニット B 820 の物性および自己組織化過程の理論的解明

(D 3)

研究室名	氏 名	出身大学 (国)	研究テーマ
田 中 研 究 室	平 出 裕 美	明治薬科大学	沖縄産海洋生物の成分探索および構造決定
	AHMADI PENI (9 月 終 了)	インドネシア	Search for biologically active compounds to fill the demand for new drugs (新規薬剤を志向した生理活性物質の探索)
新 垣 研 究 室	岩 崎 綾	琉球大学	沖縄および日本全国における酸性雨および大気環境に関する化学的研究

学年は平成 30 年 9 月 1 日現在

平成30年度 役員・各期幹事名簿

1. 同窓会役員

顧問	渡久山 章	(琉球大学名誉教授)
会長	川満 裕史	(32期)
副会長	松田 了	(32期)
副会長	赤嶺 欣哉	(33期)
事務局長	波平 治	(32期)
会計	比嘉 仁志	(32期)
書記	幸地 英之	(32期)
書記	金丸 利康	(32期)
書記	宮城 喜一郎	(34期)
監査	長門 貴子	(32期)
監査	大湾 雅一	(33期)

2. 各期幹事

1期	大城 清一	25期	山田 保	49期	伊志嶺 早苗
2期	山城 次郎	26期	真栄里 美保	50期	屋嘉比 康彦
3期	伊礼 正	27期	佐久 本守	51期	伊敷 直純
4期	新垣 庸一郎	28期	幸地 綾子	52期	仲真 良秀
5期	下地 康嗣	29期	荻原 和仁	53期	伊藤 道裕
6期	友寄 英諄	30期	田場 繁	54期	小谷 有司
7期	仲里 利信	31期	佐和田 正二	55期	東江 浩
8期	吉川 嘉勝	32期	川満 裕史	56期	神里 知洋
9期	伊良部 光男	33期	大湾 雅一	57期	田崎 盛也
10期	渡久地 政治	34期	宮城 喜一郎	58期	村田 正将
11期	大城 忠一	35期	安里 利光	59期	又吉 健太郎
12期	川満 尚	36期	中村 健	60期	兼次 陽大
13期	高嶺 朝勇	37期	平良 直秀	61期	上里 裕紀
14期	幸喜 稔	38期	山里 崇	62期	渡辺 公美子
15期	富永 勇	39期	武村 盛久	63期	田中 志貴子
16期	比嘉 敏勝	40期	瑞慶山 功	64期	島袋 泰博
17期	玉城 正信	41期	赤嶺 成久	65期	
18期	宮城 朝順	42期	川満 永公		
19期	佐久 眞章	43期	宮城 健		
20期	糸数 初枝	44期	新屋敷 博人		
21期	伊元 幸春	45期	小島 健司		
22期	西浜 完治	46期	真壁 慎治		
23期	平良 辰二	47期	国場 豊		
24期	奥間 有	48期	米須 清彦		

琉球大学化学同窓会会則

(目 的)

第 1 条 本会の目的は、化学する心を育み、会員相互の親睦と琉球大学化学及び海洋自然科学の発展に貢献することを目的とする。

(名称及び事務局)

第 2 条 本会は、琉球大学化学同窓会と称し、事務局を理学部海洋自然科学科（化学系）事務室に置く。

(会 員)

第 3 条 本会の会員は次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 琉球大学化学科卒業生、海洋自然科学科卒業生、理工学研究科化学関連研究生並びに関連する大学院生。
- (2) 特別会員 正会員以外の琉球大学化学科現旧職員、及び琉球大学教官で本会の主旨に賛同する者。
- (3) 準 会 員 琉球大学化学科在学生、海洋自然科学科（化学系）在学生、及び正会員以外の同大学院生。
- (4) 賛助会員 本会の主旨に賛同し、役員会で推薦した者。

(事 業)

第 4 条 本会は、前条の目的達成のために、次の事業を行う。

- (1) 会誌の発行
- (2) 会員名簿の管理
- (3) 琉球大学海洋自然科学科（化学系）教官の退職激励会及び叙勲者、受賞者の激励会。
- (4) その他、本会の目的達成のために必要な事業。

(会員の努め)

第 5 条 会員は転居、改姓の都度、その旨本会事務局に通知するものとする。

(役員構成)

第 6 条 本会に次の役員を置く。

会長 1 名、副会長 1 名、事務局長 1 名、会計 1 名、書記 2 名、
琉大海洋自然科学科（化学系）幹事 1 名。
会計監査委員 2 名。

(役員選出)

第 7 条 役員は次のとおり、会員の中から選出する。

- (1) 会長、副会長は各期持ち回りとし、総会において選出する。
- (2) 事務局長、会計、書記、会計監査委員は会長が委嘱する。
- (3) 琉大化学幹事は海洋自然科学科（化学系）主任があたる。

(役員任務)

第 8 条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- (3) 事務局長は、会長の指示により、会務を統率し、その事務を処理する。
- (4) 会計は、会計事務を処理する。
- (5) 書記は、会議の議事録の整理と文書事務を処理する。
- (6) 琉大幹事は、大学側を代表し、大学と同窓会との連絡調整の任にあたり会務が円滑に遂行できるようにする。
- (7) 会計監査委員は、本会の財産及び会計等の諸帳簿を監査し、その結果を総会で報告する。

(顧問の設置)

第 9 条 本会は、特別会員及び本会に貢献した者の中から若干名の顧問を置くことができる。

顧問は会長の相談に応ずる。

(役員、顧問の任期)

第 10 条 役員、顧問の任期は次のとおりとする。

(1) 役員の任期は 1 年とする。

(2) 顧問の任期は 2 カ年とし、再任を妨げない。

(各期幹事)

第 11 条 各期に幹事 1 名を置く。各期幹事は各期で互選する。

各期幹事は各期を代表し、同窓会と同期生との連絡調整の任にあたり、会務が円滑に遂行できるようにする。

(総会)

第 12 条 総会は年度 1 回、定期総会を開催する。

2. 定期総会は次の事項を審議決定する。

(1) 会則の改正 (2) 役員の選出 (3) 会務報告及び会計報告

(4) 予算、決算の承認 (5) その他必要な事項

3. 会長が必要と認めたときは、臨時総会を開催することができる。

4. 総会の議長は会長が務める。

(役員会)

第 13 条 役員会は第 6 条の役員で構成する。

2. 会長は必要に応じて、役員会を開催することができる。

3. 役員会の任務は次のとおりとする。

(1) 総会に提出する議案の審議。

(2) 事業に関する企画と運営。

(3) 正、特別、賛助会員の推薦。

(4) その他必要な事項。

4. 役員会は、役員の 3 割以上の出席をもって成立する。

5. 本会の会務執行は、役員会において、協議決定し、会員に通知する。

6. 役員会は、この会則に定められている事項のほか、急を要する事項について決定することができる。

(決議)

第 14 条 総会、役員会の決議は、出席者の過半数による。賛否同数の場合は議長の決するところによる。

(会費)

第 15 条 本会の会費は年間 2, 000 円とする。但し、終身会費 10, 000 円でこれに替える事ができる。

(運営費)

第 16 条 本会の運営費は次の収入をもって当てる。

(1) 会費 (2) 寄付金 (3) その他

(諸帳簿の備付)

第 17 条 本会に次の諸帳簿を備える

(1) 会員名簿 (2) 議事録 (3) 会費徴収簿 (4) 金銭出納簿 (5) 財産目録 (6) 備忘録綴

(会則の改正)

第 18 条 本会則の改正は総会の議決による。

(解散)

第 19 条 本会の解散は総会の議決による。

(会計年度)

第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終了する。

(細則決定)

第21条 本会則の施行についての細則は、役員会の承認を得て、会長が定める。

(個人情報保護方針)

第22条 琉球大学化学同窓会個人情報保護方針を別途定める。

付則

この会則は、平成3年9月14日から施行する。

付則

この会則は、平成10年11月14日から施行する。

付則

この会則は、平成18年2月25日から施行する。

付則

この会則は、平成23年1月22日から施行する。

付則

この会則は、平成29年11月4日から施行する。

琉球大学化学同窓会個人情報保護方針

1 基本的な方針

琉球大学化学同窓会は、平成 27 年 9 月に改正された個人情報保護法の平成 29 年 5 月 30 日付けの全面施行を受けて、同窓会員の個人情報の適切な保護及び利用の重要性に鑑み、「個人情報保護に関する基本的な考え方」について、以下の基本方針で取扱いします。

- (1) 琉球大学化学同窓会は、会員の個人情報の取り扱いに際し、個人情報保護法の精神を厳正に遵守し、個人情報管理責任者を置き、本会並びに業務委託先も含めた個人情報の適切な取り扱いに努めます。
- (2) 個人情報の収集は、本会の利用目的の範囲内において、適正な手段で行います。
- (3) 個人情報の漏洩・毀損・滅失等のないようにし、充分正確かつ安全に管理します。
- (4) 個人情報収集時に明示し、同意いただいた利用および提供の範囲を越えた個人情報の利用および提供はいたしません。
- (5) 会員から、個人情報の開示、訂正、追加または削除等の申し出があった場合は、適切な範囲で速やかに対応いたします。
- (6) 個人情報保護のための管理体制、および取り組みを継続的に見直し、その改善を図ります。

琉球大学化学同窓会は、ユーザーのプライバシー保護にあらゆる努力をしますが、裁判所や政府行政機関などからの召喚状、令状、命令などの法的手続きなどの要求に応じる際には、情報を開示することがあります。

2 会員の個人情報保護について

会員からご提供いただいた個人情報は、琉球大学化学同窓会内の安全な環境で厳重に管理、保存されます。

琉球大学化学同窓会では、会員のプライバシーを守秘するための努力を怠ることはありませんが、司法上の処理、裁判所命令、同窓会のサイト上における法律上の処理に従う必要があると判断した場合は、法に基づき個人的な情報を公表する可能性があります。

- (1) 登録していただく個人情報について
 - ① 氏名、住所、電話番号
 - ② 必要に応じ、メールアドレス、職業、勤務先（名称、電話番号）
- (2) 個人情報の利用目的について
 - ① 総会・懇親会の開催通知
 - ② 同窓会会員名簿（原簿）の編纂・加筆（同窓会名簿の発行、会員への配布は行いません。なお、必要に応じ、各期幹事へ当該期会員の個人情報を提供します。）
 - ③ その他の同窓会事業（総会資料及び会誌への役員及び各期幹事の氏名の掲載等）
- (3) 個人情報の開示・訂正・削除
 - ① 登録いただいた個人情報は、原則として本人に限り、開示・訂正・削除を求め

ることができます。

- ② 同窓会会員は、住所に変更があった場合は、情報を正確に更新するため、変更前後の情報を同窓会までお知らせください。
- ③ 具体的な方法については、記載されている連絡先にお問合せください。
- ④ 個人情報の開示・訂正・削除のご依頼があった場合、原則として本人であることが確認できた場合に限り、合法的な範囲（利用目的の達成に必要な範囲内）において速やかに対応致します。

3 個人情報の第三者への提供

同窓会は、登録いただいた個人情報を本人の承諾なく第三者に開示することはありません。ただし、次の場合は個人情報を第三者へ提供することがあります。

- ① 利用者の作為・無作為を問わず、当支部の権利や資産、および第三者などに対し損害又は不利益を与える可能性のある場合、当支部はその行為を行った会員の情報を調査し、当該第三者や警察又は関連諸機関に通知することがあります。
- ② 裁判所、検察庁、警察またはこれらに準じた権限を有する機関から、利用者からの提供情報および個人情報の開示を求められた場合、当支部はこれに応じて個人情報を開示することがあります。
- ③ 個人情報保護法第23条に基づく場合、開示できるものとします。

平成 29 年 11 月 4 日より施行する

琉大逍遙歌

1952年5月22日制定

作詞 新川 豊

作曲 渡久地 政一

♩ = 100 余りおそくなく、感情をこめて

1. ふーるきのみやこにさすらいて
1. とーものなやさけにさよいふしで

せいのあをとたずぬれば
みいなみじゅううととかたぬらえ

ああるせいしゅんのちほうさえては
ふあるせほしかんげにちうさきゅうのまこ

たくののぞみーちかーあーり
たのひぞかみーちめぐむーなーり

琉大逍遙歌

作詞 新川 豊

作曲 渡久地 政一

一、ふるき都に さすらいて

世紀のあとを 尋ねれば

ああ青春の 血はさえて

羽ばたく希望 力あり

二、友の情けに 酔いふして

南十字と 語らえば

降る星影に 悠久の

真理の光 萌むなり

三、われら若人 純情に

巷の恋は うそぶけど

見よ東雲に 翔りゆく

旦の生命 息吹あり

編集後記

幸地英之（平成 30 年度会誌班班長）

今回の「琉大化学」第 33 号については、堀内先生の追悼と平良先生の叙勲という悲しい出来事と嬉しいことの両方を特集するというかなり変則的な形で刊行させていただきました。賛否はあるかと思いますが、年に 1 回の発行とはいえ、なるべくリアルタイムにという考えでこのような形となりましたことをご了解願います。

また、いつものことながら、多忙な中、琉大化学系の先生方、学生の皆さん、卒業生の皆様には、ご寄稿いただきありがとうございました。お陰さまでなんとか無事、刊行迎えることができましたことを心より感謝を申し上げます。

さらに、今回はレイアウトも変更し、読みやすさを意識して二段組みで、フォントサイズを 11 ポイントとしてみましたが、いかがでしょうか。忌憚のないご意見をいただき、次年度幹事へ引き継ぎたいと思います。

役員会・編集会議で集まる中、近況報告だけでなく思い出話にも花が咲き、会議が長引くことにもなりました。それもあって、我々の写真が多くなっていることをお許しください。

さて、ここ数年、化学科の編成について記載してありましたが、今回は、琉大の歴史も振り返ってみようと 50 周年記念誌から一部掲載させていただきました。より詳しい内容については、琉球大学同窓会の HP をご覧ください。

今年度は、諸事情により、32 期と 33 期の合同で会の運営及び会誌編集に当たってきました。これまでの流れを変えることとなり、申しわけありません。特に 34 期以降の皆さんには、予定より 1 年早く引き継ぐことになってしまいましたが、よろしく願いいたします。



表紙題字 森 巖 氏

表紙デザイン 川 満 裕 史 氏

2016 年 11 月 30 日、理化学研究所仁科加速器科学研究センターが、合成した 3 原子が新元素として認定され、Nihonium（ニホニウム 元素記号 Nh）が正式に決定されました。

反応式だけをみれば、 $_{30}\text{Zn} + _{83}\text{Bi} \rightarrow _{113}\text{Nh}$ と簡単ですが、10 年近い年月をかけても 3 原子しか合成できていないことや寿命も約 1000 分の 2 秒と短く、瞬く間にほかの元素へと壊変することなど、その証明は困難を極めたそうです。

今回、欧米以外で初となる新元素の発見を記念するとともに、それぞれ異なっても、日々の直面する困難を乗り越えていく大切さになぞらえ、ニホニウムのボーアモデルを表紙として取り上げさせていただきました。

広 告

～ご協力ありがとうございます～



厚生労働大臣食品登録検査機関
水道水質検査優良試験所規範(GLP)認定機関
～環境の保全と創造の調和・食品の安全と安心の確立をめざして～

株式会社 沖縄環境保全研究所

代表取締役 平良 辰二

うるま市州崎7番地11 TEL (098)934-7020 <http://www.okhk.co.jp/>



社屋全景

化学科卒業 職員

氏名	卒業	役職
平良 辰二	23期生	代表取締役
兼次 佐千男	24期生	専門官
比嘉 榮三郎	25期生	管理監
砂辺 理	35期生	部長
喜瀬 学	37期生	課長
城間 優一	38期生	課長
新城 智子	42期生	補佐
本田 龍太郎	56期生	食品分析課
東恩納 裕美	60期生	食品分析課



沖縄総合事務局 優良業務部門局長表彰
及び 優秀技術者部門局長表彰
喜瀬学(37期生)と平良所長 2017年7月



水道GLP取得 2018年2月



会社創立45周年記念旅行
社員と家族が参加 2017年9月



環境分析から環境調査まで



何でも やります！



一般財団法人沖縄県環境科学センター

〒901-2111 沖縄県浦添市字経塚720番地
TEL: (098) 875-1941 FAX: (098) 875-1943
ホームページアドレス: <http://www.okikanka.or.jp/>

飲料水検査、簡易専用水道管理検査、検便検査、食品検査

大気・水質・土壌分析、騒音・振動測定、河川・海洋等環境調査

- ◆琉球大学理学部化学科卒業生 10 名（大学院修了生 7 名）
- ◆琉球大学理学部海洋自然科学科卒業生 11 名（大学院修了生 5 名）



株式会社 南西環境研究所

Nansei Environmental Laboratory Co., Ltd.

■会社概要

社名	株式会社 南西環境研究所
代表取締役	田中 順一
設立	1997年(平成9年)9月1日
資本金	7,500万円
従業員数	41名 ※正社員のみの数



■ISO/IEC 17025:2005 適用事業登録

■事業内容



自然環境調査

Natural Resources Survey



分析

Environmental Analysis



測定

Environmental Measurement



環境アセスメント

Environmental Impact Assessment



研究・開発

Research & Development



土壌汚染調査

Soil Contamination Investigation

■有資格者

□博士(理学) 4名

□技術士
総合技術監理 / 1名
建設部門 / 1名
環境部門 / 5名
農業部門 / 1名

□環境計量士
濃度 / 9名
騒音・振動 / 3名

□土壌汚染調査技術管理者 3名

□一級土木施工管理技士 1名

□RCCM
建設環境 / 1名

□測量士 2名

□測量士補 4名

□第二種放射線取扱主任者 2名

□第一種作業環境測定士 4名

□公害防止主任管理者 1名

□公害防止管理者
水質1種 / 9名
ダイオキシン類 / 2名

□臭気判定士 1名

□二級バイオトップ
計画管理士 2名
施工管理士 2名

□アスベスト診断士 1名

□建築物石綿含有建材調査者1名

□Asbestos Building Inspector /
Management Planner 5名

□Asbestos Project Designer 1名

□Asbestos Contractor / Supervisor 2名

□NOSH582Course 5名

□Lead Inspector 1名

□農業土木技術管理士 1名

※2018年 9月現在

■琉球大学卒業生 17 名

- ・・・理学部 11名
(うち化学系 9名)
- ・・・農学部 4名
- ・・・工学部 1名
- ・・・教育学部 1名

■ご相談、お問い合わせはこちら

URL : <https://www.nansei-kankyo.co.jp>

〒903-0105

沖縄県中頭郡西原町字東崎 4-4

TEL 098-835-8411





オカノ

社員の 5 人に 1 人 が琉大生

業務内容は
OBの私が
教えてあげます

ベテランから若手まで多くの先輩が活躍しています

OB・OG訪問 大歓迎!!



オカノは地元沖縄との「絆」を 技術と真心 でつなぎます

当社は 1983 年 12 月に、県内唯一の一般高圧ガスメーカー(株)おきさんから設備工事や販売部門を分離し、那覇市安謝で営業を開始しました。

現在は、医療設備工事、空調・衛生および防災設備工事、消防自動車をはじめ消防機材等の販売、LP ガス関連工事及び検査、特殊車両整備など、多岐にわたる事業を展開しています。2009 年 4 月に宮古島市、2014 年 6 月には名護市に営業所を開設し、新たな市場開拓にも取り組んでいます。

(株)オカノ本社 / 那覇市安謝 1-23-8

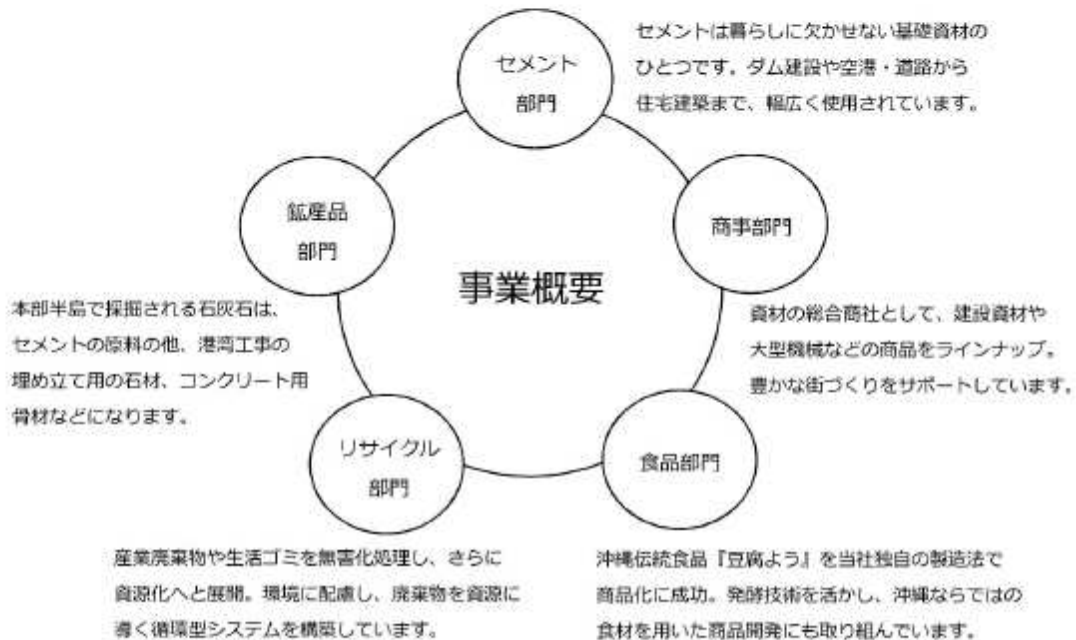
<http://okinawa-okano.co.jp/> 採用情報はマイナビで検索

郷土の資源で郷土をつくる



琉球セメント

TEL : 098-870-1080 FAX : 098-870-1083



～卒業生より～

琉球大学 理学部 海洋自然学科 2007 年卒業

伊芸 弘伸

在学生のみなさん、はじめまして。2007 年卒業生の伊芸です。

私の働く琉球セメントでは、コンクリート作るための材料の一つであるセメントを製造しており、近年では県内事業活動や生活から排出される建設発生土やゴミ焼却灰、廃プラスチックといった廃棄物をセメントの原燃料として再利用するリサイクル事業を拡大すべく力を入れています。

入社後は品質管理室へ配属され、蛍光X線分析装置を用いたセメント原料及び製品の成分分析業務と、得た結果を解析して生産工程へフィードバックする品質管理業務を担当していました。大学で学んだ化学の基礎知識や化学分析の経験のおかげで、業務への導入がスムーズにできたように思えたのを今でも覚えています。

弊社には研究開発を専門とする部署はありませんが、化学分析や物理試験を用いて品質管理を行う「品質管理室」をはじめ、廃棄物収集及び利用検討を行う「リサイクル事業推進室」、廃棄物を実際にセメント原料として再利用する「生産課」と、化学系の皆さんが活躍できる場がありますので、今後の進路選択の際、弊社にも興味を持っていただけたら幸いです。

～ よりよい環境のために ～

株式会社 **沖縄環境分析センター**

● 代表取締役社長 渡久地 博之

〒901-2215

沖縄県宜野湾市真栄原3丁目7番24号

TEL: (098) 897-0910

FAX: (098) 897-0957

E-mail: info@oeac.co.jp

● 業務内容

大気・水質・土壌・騒音・振動・悪臭等の測定分析
水道法・ビル管理法に基づく飲料水水質検査
各種作業場の作業環境測定
環境調査(陸上動植物・海生生物・流況等調査)
環境アセスメント
自然再生事業計画
自然観察指導員養成
地域計画

● 登録

建設コンサルタント(建設環境)
環境計量証明事業(濃度・騒音・振動)
土壌汚染対策法の指定調査機関・作業環境測定機関
厚生労働省水質検査機関登録
ビル管理法に基づく飲料水水質検査業
AIHA(米国産業衛生協会)認可・気中石綿繊維濃度分析機関
NVLAP(米国商務省・標準技術局)認可・石綿建材分析機関



琉大化学
第 33 号

発 行 平成 30 年 11 月 3 日

発行者 琉球大学化学同窓会
沖縄県西原町千原一番地

琉球大学理学部
海洋自然科学科（化学系）事務室
TEL (098)895-8100
FAX (098)895-8565

印 刷 赤道印刷(有)
沖縄県うるま市字江洲 289 番地
TEL (098)973-3383